入学式　４月４日

清水ヶ丘だより

'08 夏号

SUWA SEIRYO HIGH SCHOOL NEWS　2008.7 vol.20

清陵祭　７月４日～７日

重松 清 氏による講演会

全国大会出場!!

■端艇部
インターハイ

■古典ギター部
ギターマンドリンフェスティバル

■かるた部
全国総合文化祭

これからの行事予定

8月23日(土)		サイエンスフォーラム
9月	3日(水)	端艇大会
	16日(火)～19日(金)	定期考査②
10月	2日(木)	クラスマッチ
	15日(水)	湖周マラソン
	18日(土)	第２回授業公開
11月	4日(火)～7日(金)	研修旅行（２年）
	5日(水)～7日(金)	定期考査③（３年）
	19日(水)～21日(金)	定期考査③(1･2年)

諏訪清陵高校をめざす中学生と保護者の皆様へ

学校長　篠原　秀郷

本校は明治28年(1895年)に創設され、以来113年にわたりここ諏訪市清水町の丘陵に歴史を刻み続ける、県下有数の進学校です。そして、21世紀の今日も建学の心を受け継ぎ、「高い知性」と「広い視野」を持つ人間の養成をめざして教育活動を進めています。

在校生は現在７３２名。それぞれの生徒諸君が強い意志を持ち、勉学や学友会、クラブ活動に邁進しています。

本校は、大学に進学して専門的な学問研究を続け、さらに今日の国際社会で活躍できる創造性豊かな人材を育む学校です。そのために、本校では、「何のために学ぶのか?」という問いに、「学ぶことそのものが目的である。」と答えられる高校生であることを、教育活動全ての場面で求めていきます。「未知」に向かって開かれた謙虚な心と「知」の獲得を楽しむ旺盛な好奇心こそ、「高い知性」と「広い視野」の源泉に他ならないからです。

また、本校では国公立大学への現役進学を目標に指導します。過去３年間では、現役で40％(浪人を含めると55％)が国公立大学に合格しています。また、東大、京大、東北大や国立大医学部、早稲田大、慶応大などの難関大学には、現役で18％(浪人を含めると25％)が合格しています。県内でも極めて高い合格率です。

卒業生21,000余名の思いと努力が高い「壁」を創り、後輩の生徒諸君は先輩の築いた「壁」をさらに乗り越えるため、志を新たにたゆまぬ努力を続けています。

将来の夢に向かい、知性と人間性を鍛えようと決意している中学生の皆さんを心より歓迎します。

SUPER
SCIENCE
HIGH SCHOOL

SSH is your future・・・

～夢を抱き、夢を追いかけ、夢を叶える～

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、未来を担う科学技術系人材育成のために先進的な理数教育を行う文部科学省の指定校です。本校は、平成 14 年度から 3 年間、さらに平成 17 年度から 5 年間の指定を受け様々な取組みをしています。

図１　アラスカの地震活動の講義

図２　今年のオーロラ

SSH「海外科学セミナー」アラスカ研修

2008年2月5日から4泊6日でアメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクスに2学年SSH課程生徒24名で行ってきました。予備観測を含めると今年で3年目です。

2月の平均最低気温が－25℃のフェアバンクスですが、数年来の寒波に見舞われており、日中の最高気温は－30℃以下で、未明の最低気温は－40℃以下でした。酷寒の中、すべての観測、実験、研修を終えて全員無事帰ってきました。研修の模様を紹介します。

お昼に起きて、ホテルの部屋で軽食をとり、アラスカ大学へ研修に行きます。オーロラの世界的権威の赤祖父俊一先生をはじめとする先生方に気候変動、地震、火山の講義やスーパーコンピューターの実習をしていただきました(図1)。

夕方ホテルに戻って食事をした後、標高700メートルの山の上に行きます。諏訪盆地でも冬季に時々起こる気温の逆転現象によって、気温は麓より高く－25℃でした。ここでオーロラ(図2)の観測や、様々な極地実験を行いました(図3)。観測が終わるのは深夜で、データの整理などをして午前4時に就寝します。

研修中にはほかにも紫外線量、磁場、重力加速度や雪の成分、植物、生徒の血圧・心拍変化などの実験を行ないました。これらの研究成果は5月25日に幕張メッセで行われた日本地球惑星科学連合2008年大会（図４）や清陵祭などで発表しました。

図３　－25℃の屋外で観測・実験

図４　学会でポスター発表

SSH スケジュール　７・８月

実施日	内容	会場	対象
7/5（土）・7/6（日）	清陵祭　SSH ポスター発表 SSH 口頭発表	理科講義室（北校舎 3 階） 小体育館（7/6 午前）	全校 一般公開
7/9（水）	コンピュータのしくみ	物理教室	希望者
7/30（水）・7/31（木）	遺伝子操作体験実習	信州大学 ヒト環境科学研究支援センター	２年 S 講座
8/4（月）～6（日）	分析技術体験	セイコーエプソン株式会社 富士見事業所	２年 S 講座
8/23（土）	オーロラフォーラム 東大名誉教授　小口高 氏 自然写真家　牛山敏男 氏	諏訪市文化センター	全校 一般公開

進路指導室から

３学年進路講演会

５月２４日の学年 PTA で河合塾立川校校長の堀内晃氏を講師にお迎えし進路講演会を行いました。参加予定者数を大きく上回る約 130 名の保護者が出席しました。

講演の内容は、最新の入試情勢、入試制度、受験勉強の仕方といった形式的なことばかりでなく、大学で勉強することの意味、複雑な時代をどのような態度で生きていったらよいか、また親として受験生の子どもを生活面・メンタル面でどのようにサポートすべきか、などを具体的な実例を示しながらわかりやすく話していただきました。次はある保護者の感想です。

「受験期の親子関係というのはお互い気を使い大変なものだと思っていたが、講演を聞いて、逆に大変な時期だからこそ本物の人間関係が築けるかどうかが試されるのだと思う。子育てのしめくくりのつもりで真剣に前向きな気持ちで子どもに接してあげたいと思うようになりました。」

自習室

進路資料室

♪この春の卒業生から清陵高校の思い出、大学生活の様子などを聞かせてもらいました♪

上智大学
外国語学部
ドイツ語学科
佐藤　なつみ

「近況そして感謝」

私は上智大学外国語学部でドイツ語を学んでいます。幼い頃からピアノを続け、音楽系の進路に進もうと考えていたこともあるので、数多くの作曲家が生まれたドイツ語圏の文化や歴史を言語とともに勉強できるこの学科を選びました。外国語学部は、ある先生によると、「外国語を使って何かをしましょう学部」なのです。また、上智大学には他にも様々な学部があり、教養科目などで他分野についても充実した勉強ができるのも魅力的でした。現在は毎日ドイツ語の基礎を勉強しています。ドイツ語の授業は少人数で行っているので質問もしやすく、簡単ではありませんが楽しいです。また、サークルでそれぞれの目標を持った人とも出会え、上智に来て良かったと実感しています。

清陵での３年間は、大変なことや悩んだこともありましたが、いい友達や先生に恵まれ、とても充実していました。素敵な思い出がたくさん作れたのは友達のおかげです。勉強でも、友達に刺激を受けたから頑張れました。また、多くの先生方にも、直前まで過去問の添削や進路の相談に乗っていただき、本当にお世話になりました。３年生の頃、特に清陵祭前が最も忙しく、しかし最も充実していて楽しかったです。清陵は、頑張ろうとすれば何でもできるところです。卒業して三ヶ月経った今、改めて清陵に通えたことを誇りに思います。後輩の皆さんにも、いい高校生活を送ってほしいです。３年間ありがとうございました。

東京大学
文科三類
有賀　雄大

「かっこいい清陵生」

清陵のいいところ、それは言いたいことが言える学校だということ。言いたいことがあれば、談論会で出てくればいい、学友会長選に出ればいい、檄文を書けばいい。思っていることをみんなに伝える、そういうことのできる学校だ。

みんなの前ででかい声で主張できるやつは文句なくかっこいい。

男も女も、すべて清陵生は、いつも**かっこいい**清陵生であってほしい。

言いたいことを言う前に、考えすぎちゃいけない。「自分の思うことは本当に正しいのか？」この問いかけは、永遠に終わらない。「やっぱり正しくないかもしれない。」となるのがおちだ。いったん正しいと思ったら、思い切って言ってしまえ。その、心の中にある「言いたい！」というエネルギーを殺してはいけないのだ。みんなが自分の正しいと思うことをバンバン言い合い、バンバンぶつかる、これが一番かっこいいし、面白い。大事なのは「自分が正しいと思う」というところであって、「誰もが正しいと思いそうなこと」を言おうとする必要はないのだ。いつまでも考えていないで言ってみる。ときには人をうなずかせ、ときには自分がうなずかされる。これほど楽しいことがあるだろうか、いや、ない。

議論の経験が社会で役に立つ、などということはあえて言うまい。清陵生よ、かっこいい清陵生であれ。

生徒こらむ

「部活動を通して学んだこと」

3年　牛山　綾

私は小学校4年生から陸上競技を始め、中学校で陸上部に入部し、高校でも憧れの先輩方がいた清陵の陸上部に迷わず入りました。陸上競技を始めて9年になりましたが、この清陵陸上部で学んだことはとても大きいです。

高校の部活動で学んだことは、周囲の人たちに感謝の気持ちを持って走るということです。私がやっていた「7種競技」は、2日間で7種目を行う競技なので、自分の力だけで2日間も戦い抜くことは難しいのです。でも、周りの多くの人がサポートや応援をしてくれて、いつもレースに臨むことが出来ました。大会で走ることが出来るのは、自分一人の力だけじゃないと改めて感じ、いつも感謝の気持ちを持ってスタートラインに立とうと思いました。

これまで、応援をしてくれた人たちや、関係する多くの人に感謝の気持ちを持って走るということを気づかせてくれた陸上部に感謝しています。

これからは、陸上を通して身につけたことを活かして、受験という戦いに臨んでいこうと思います。

「学友会に関する愚痴」

2年　北原　智啓

清陵の学友会は四月、九月を境とした前後期に分かれている。それぞれ前期は三年生、後期は二年生を主体とし、各クラスから半数くらいが様々な委員会に所属し職務に当たる。

僕は今年度の後期学友会長という立場にある。正式な任期は九月からではあるが、任期開始後すぐにある「端艇大会」のために既に活動している。まだ活動を始めて一ヶ月と経っていない身ではあるが、その中で感じることがある。言うなれば会長という職務は「中間管理職」である、と。

会長という役職は名前からいけば全体の総括者で、何か専制的なものを感じる一面もある。しかし内面は生徒と、職員をつなぐパイプライン、中間管理職でしかない。つまり僕たち会長は、生徒が考えたり実行しようとする様々をまとめて、生徒を代表し職員に掛け合いに行くという、そういったものでしかない。つくる云々は生徒であって僕じゃない。だからこそ面倒くさい。全て自分でやってしまえば、これ程楽なことは無い。しかしそうはいかない。皆が実に個性的であり、一人一人の情熱の懸けどころもこだわりも違う。これが中学だったら、もっと楽だと思う。大衆の台頭とでも言うべきか、これは清陵学友会ならではだろう。「会長」なんてのは、学友会ではちっぽけな存在である。

あと半年、この中間管理職を続ける。精一杯管理していこうと思う。皆、勝手に動いてくれ。それでこそ清陵学友会だ。

「文武両道」

1年　中村健也

僕が高校に入学して、まず驚いたのは、予習の多さです。実際、中学生の時に予習なんてしたことのなかった僕は、提出物はある、更にテスト勉強はある、それでも授業の予習をしなくてはならないという毎日がとても大変で、自分の時間を作ることが出来ず、それこそ高校入試のような生活を送っていました。それでも今までやってこれたのは、部活動があったからです。勉強がヤバイから部活に入らないという人が入学当時いましたが、僕は勉強が大変だからこそ、好きなことをやり、集中して勉強に取り組めました。おそらく部活に入っていなかったら、時間は沢山あってもダラダラしてしまい、結局は勉強できなかったでしょう。

僕は、バレーボール部に所属しています。中学のバレーとは違う高校のバレーボールに慣れるのには苦労しましたが、合宿や大会を経験し、徐々に慣れることが出来ました。ボールの大きさの違い、体力の差、そして体格の差など、まだまだこれからの課題は沢山ありますが、一つ一つ乗越えていきたいです。部活をしながら勉強もすることが、大変だと思うことも、もっと楽をしたいと思うことも何度もあります。でも、部活も勉強もやり遂げられた時にしか味わえない達成感があるはずです。ここで逃げるのではなく、3年後、卒業のときにそんな達成感が持てるように生活していきたいです。

■発行・編集
長野県諏訪清陵高等学校　教務（広報情報係）
〒392-8548　長野県諏訪市清水 1-10-1
TEL.　0266-52-0201　FAX.　0266-57-2426
http://www.nagano-c.ed.jp/
seiryohs@nagano-c.ed.jp
本誌は、県教育委員会教学指導課の「魅力ある活動支援事業」により作成しています。